

# 開催要領:平成 21 年度問題別研究会「体細胞クローン技術の現状と将来展望」

## 1. 開催趣旨

6月25日、食品安全委員会は、体細胞クローン家畜の食品健康影響評価の結果を厚生労働大臣に答申しました。その結論は、「現時点における科学的知見に基づいて評価を行った結果、体細胞クローン牛及び豚並びにそれらの後代に由来する食品は、従来の繁殖技術による牛及び豚に由来する食品と比較して、同等の安全性を有すると考えられる」というものです。一方、この評価やパブリックコメントにおける国民からの意見等を踏まえ、農林水産省は、8月26日、生産率が極めて低く、今後も研究開発が必要であること等から、体細胞クローン家畜等の研究、生産又は飼養を行う機関に対し、クローン家畜の飼養頭数の変更等を農林水産省に報告すること、生産物は研究機関内で適切に処分すること等を内容とする通知を改めて発出しました。そこで、これらの状況を踏まえ、今回の問題別研究会では、体細胞クローン技術の現状認識を深めると同時に、この技術の将来展望に関する情報交換と議論を行います。

## 2. 共 催

社団法人 畜産技術協会

## 3. 開催日時

12月14日（月）13:00～17:00、12月15日（火）9:00～15:00

## 4. 開催場所

南青山会館

## 5. 内 容

第1日目 12月14日（火）13:00～17:00

テーマ：体細胞クローン技術の取り扱いと利用方向

### (1) 体細胞クローン技術の取り扱い

① 体細胞クローン牛及び豚とその後代に由来する食品の食品健康影響評価の概要

内閣府 食品安全委員会事務局 リスクコミュニケーション官 新本英二

② 体細胞クローン技術を用いた家畜に由来する食品について

厚生労働省 医薬食品局 バイオ食品専門官 荒木規仁

③ 体細胞クローン家畜等の取り扱いについて

農林水産省 農林水産技術会議事務局 研究開発官（食の安全、基礎・基盤） 小平 均

### (2) 体細胞クローン技術の利用方向

① 肉用牛育種におけるクローン技術の活用法

九州沖縄農業研究センター 古川 力

② 黒毛和種種雄牛生産に向けたクローン検定の利用

北海道立畜産試験場 森安 悟

③ クローン動物とクローニング技術の医学・医療への利用

明治大学 長嶋比呂志

(3) 特別講演

食品のリスク評価と新しい食品の安全性について

東京大学大学院 熊谷 進

【総合討論】

第2日目 12月15日(火) 9:00～15:00

テーマ：体細胞クローン家畜の生産効率向上へ向けた将来展望

(1) 体細胞クローン牛の生産効率向上を目指した研究開発

① 体細胞クローン流・死産牛および胎盤における病理所見

動物衛生研究所 佐藤真澄

② 体細胞クローン牛の作出率向上に向けた取り組みについて

畜産草地研究所 赤木悟史・武田久美子

③ 体細胞クローン牛を妊娠している母牛のケアと新生クローン子牛の管理

鹿児島大学 窪田 力

(2) 体細胞クローン家畜の生産効率の向上につながる基礎的知見

① 正常な体細胞クローン胚の作出・選別と妊娠増強に関する研究

近畿大学 角田幸雄

② ウシ体細胞クローン胚の遺伝子発現とその人為的制御の可能性

岩手大学 澤井 健

③ クローン胚におけるDNAメチル化制御機構とその評価

九州沖縄農業研究センター 高橋昌志・山中賢一

④ クローン胚におけるトランスクリプトーム解析

東京農業大学 河野友宏

(3) 特別講演

社会と調和した体細胞クローン技術に向けて

～科学技術コミュニケーションを考える～

ジャーナリスト 東嶋和子

【総合討議】

6. 参集範囲

農林水産省生産局、地方農政局、農林水産技術会議事務局、独立行政法人試験研究機関、都道府県試験研究機関・行政機関・指導普及機関、法人、大学、民間企業等

7. 事務局

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所

企画管理部 業務推進室 運営チーム

〒305-0901 茨城県つくば市池の台2 Tel: 029-838-8250 (直通) Fax: 029-838-8606